

『みてわかる薬学 図解 薬剤学 改訂6版1刷』追加・訂正表

いつも小社出版物をご利用いただき誠にありがとうございます。

当該書籍に以下の追加・訂正がございます。深くお詫びするとともに、ここにお知らせいたします。

■ p.106 脚注 上から3行目

【誤】

$$C = \exp\left(-\frac{\Delta H_L - \Delta H_1}{RT}\right) \Delta H_1 \text{ は}$$

【正】

$$C = \exp\left(-\frac{\Delta H_L - \Delta H_1}{RT}\right) \text{. ただし, } \Delta H_1 \text{ は}$$

■ p.127 図4-29 引用文献 ページ数

【誤】 (荒川正文：日本金属学会会報, 23 : 45, 1984)

【正】 (荒川正文：日本金属学会会報, 23 : 245, 1984)

■ p.136 「1 接触角とヤング式」 上から8行目

【誤】 接触角が 0° のときを拡張ぬれ, $0 \sim 90^\circ$ を浸漬ぬれ,

【正】 接触角が 0° のときを拡張ぬれ, 0° より大きく 90° 以下を浸漬ぬれ,

■ p.430 下から5行目

【誤】 ~にある OAT1, OAT2 によって,

【正】 ~にある OAT1, OAT3 によって,

【誤】

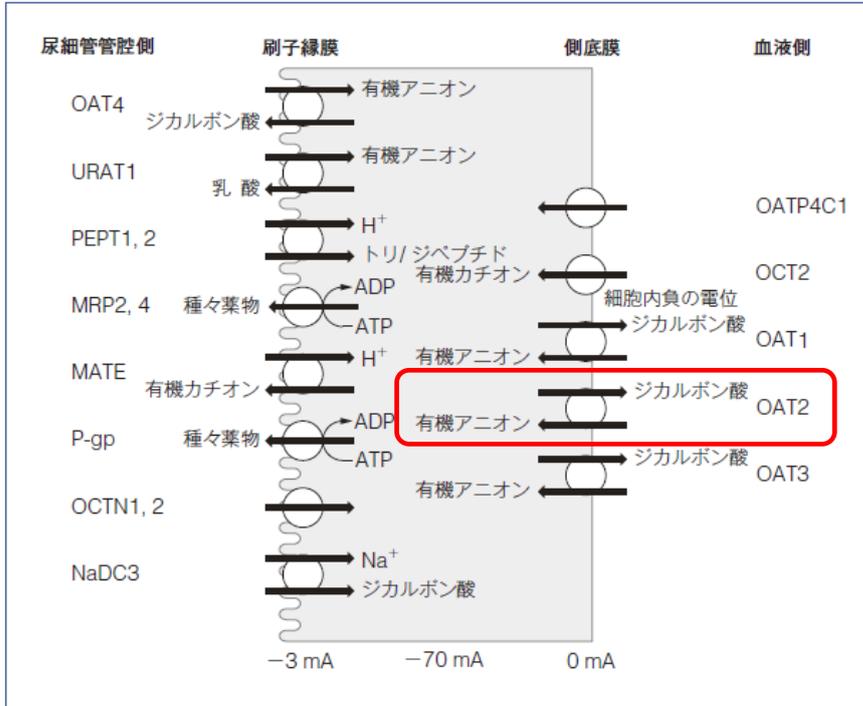


図 5-4 尿細管分泌および再吸収にかかわるトランスポーター

【正】 OAT2 を削除

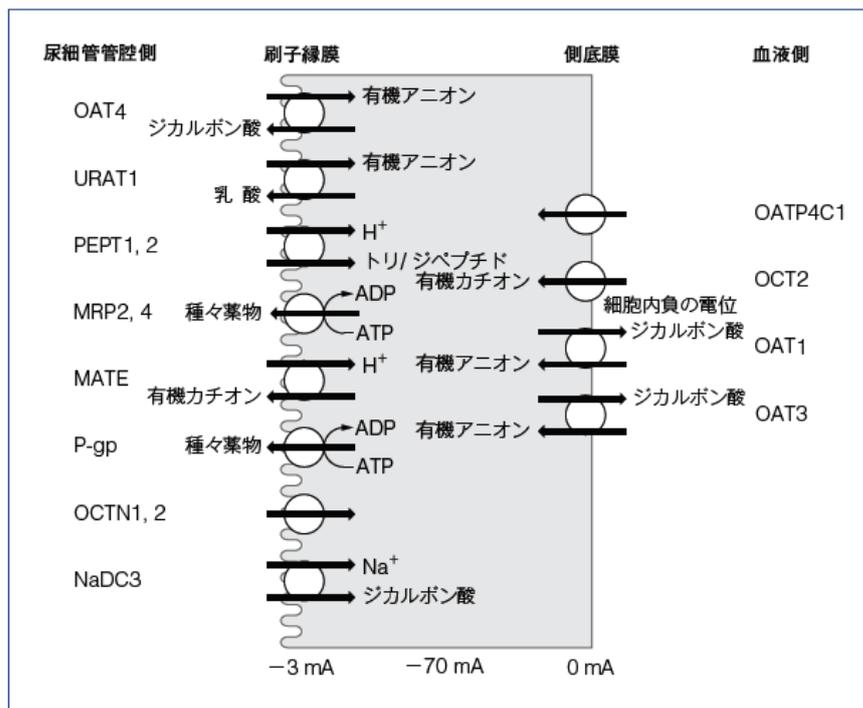


図 5-4 尿細管分泌および再吸収にかかわるトランスポーター

【誤】

表 5-3 尿細管分泌にかかわるトランスポーターと基質となる化合物

部位	トランスポーター	基質（化合物）
血液側	OAT1~3	アセタゾラミド、アセチルサリチル酸、 <i>p</i> -アミノ馬尿酸、インドメタシン、サリチル酸、シプロフロキサシン、ジドブジン、スルホンアミド、セファロスポリン、フェノールスルホンフタレイン、プロスタグランジン、フロセミド、フメタニド、ペニシリン、メトトレキサート、ヨードピラセツト
	OCT2	アマンタジン、アミオダロン、アトロピン、オキサリプラチン、キニン、シメチジン、テトラエチルアンモニウム、ドパミン、トリメトプリル、ピンドロール、プロカインアミド、ヘキサメトニウム、メトホルミン、モルヒネ
管腔側	MATE1, MATE2K	メトホルミン、テトラエチルアンモニウム など
	OCTN1, 2	テトラエチルアンモニウム、ペラバミル、キニジン
	P-糖タンパク質 (P-gp, MDR1)	ジゴキシン、ペラバミル、ベルベリン、イリノテカン、ドキソルビシン、パクリタキセル、ビンブラスチン、フェキソフェナジン
	MRP2, 4	メトトレキサート、エトポシド、ミトキサントロン、バルサルタン、オルメサルタン、アデホビル、トボテカン、フロセミド

【正】

表 5-3 尿細管分泌にかかわるトランスポーターと基質となる化合物

部位	トランスポーター	基質（化合物）
血液側	OAT1, OAT3	アセタゾラミド、アセチルサリチル酸、 <i>p</i> -アミノ馬尿酸、インドメタシン、サリチル酸、シプロフロキサシン、ジドブジン、スルホンアミド、セファロスポリン、フェノールスルホンフタレイン、プロスタグランジン、フロセミド、フメタニド、ペニシリン、メトトレキサート、ヨードピラセツト
	OCT2	アマンタジン、アミオダロン、アトロピン、オキサリプラチン、キニン、シメチジン、テトラエチルアンモニウム、ドパミン、トリメトプリル、ピンドロール、プロカインアミド、ヘキサメトニウム、メトホルミン、モルヒネ
管腔側	MATE1, MATE2K	メトホルミン、テトラエチルアンモニウム など
	OCTN1, 2	テトラエチルアンモニウム、ペラバミル、キニジン
	P-糖タンパク質 (P-gp, MDR1)	ジゴキシン、ペラバミル、ベルベリン、イリノテカン、ドキソルビシン、パクリタキセル、ビンブラスチン、フェキソフェナジン
	MRP2, 4	メトトレキサート、エトポシド、ミトキサントロン、バルサルタン、オルメサルタン、アデホビル、トボテカン、フロセミド

■ p. 439 上から 1 行目

【誤】

$$\text{男性 } eGFR_{\text{cys}} = (104 \times \boxed{C_{\text{cys-c}}}^{1.019} \times 0.996^{\text{年齢}}) - 8 \quad (5-12)$$

$$\text{女性 } eGFR_{\text{cys}} = (104 \times \boxed{C_{\text{cys-c}}}^{1.019} \times 0.996^{\text{年齢}} \times 0.929) - 8 \quad (5-13)$$

ここで、 $eGFR_{\text{cys}}$ は推定 GFR 、 $\boxed{C_{\text{cys-c}}}$ は血清シスタチン C の濃度を示す。

【正】 $C \rightarrow c$ 小文字

$$\text{男性 } eGFR_{\text{cys}} = (104 \times \boxed{C_{\text{cys-c}}}^{1.019} \times 0.996^{\text{年齢}}) - 8 \quad (5-12)$$

$$\text{女性 } eGFR_{\text{cys}} = (104 \times \boxed{C_{\text{cys-c}}}^{1.019} \times 0.996^{\text{年齢}} \times 0.929) - 8 \quad (5-13)$$

ここで、 $eGFR_{\text{cys}}$ は推定 GFR 、 $\boxed{C_{\text{cys-c}}}$ は血清シスタチン C の濃度を示す。

■ p. 444 上から 14 行目

【誤】 このため、血球以外の～

【正】 そのため、血球以外の～

■ p. 451 上から 3 行目

【誤】 ～，pH 分配**仮設**に従い，

【正】 ～，pH 分配**仮説**に従い，

■ p. 454 上から 5 行目

【誤】 ～有害作用**が**発現することが考えられる。

【正】 ～有害作用**を**発現することが考えられる。

■ p. 454 下から 4 行目

【誤】 ～，呼気中に含まれる同位体標識された $^{14}\text{CO}_2$ を測定することによって，

【正】 ～，呼気中に含まれる $^{14}\text{CO}_2$ を測定することによって，

■ p. 540 下から 4 行目

【誤】 制酸薬（水酸化マグネシウム，～

【正】 制酸薬（酸化マグネシウム，～

■ p. 548 上から 9 行目

【誤】 ～，抗 HIV 薬（ロトナビル，インジナビルなど）の併用で，

【正】 ～，抗 HIV 薬（リトナビル，インジナビルなど）の併用で，

■ p. 550 「1 タンパク結合の変動の影響」 上から 11 行目

【誤】 ～は少ない（図 7-18）.

【正】 ～は少ない（図 7-18）. ただし，肝抽出率が高くタンパク結合感受性で，特に治療域が狭い薬物の場合には，非結合形濃度の変動に注意が必要である.

【誤】

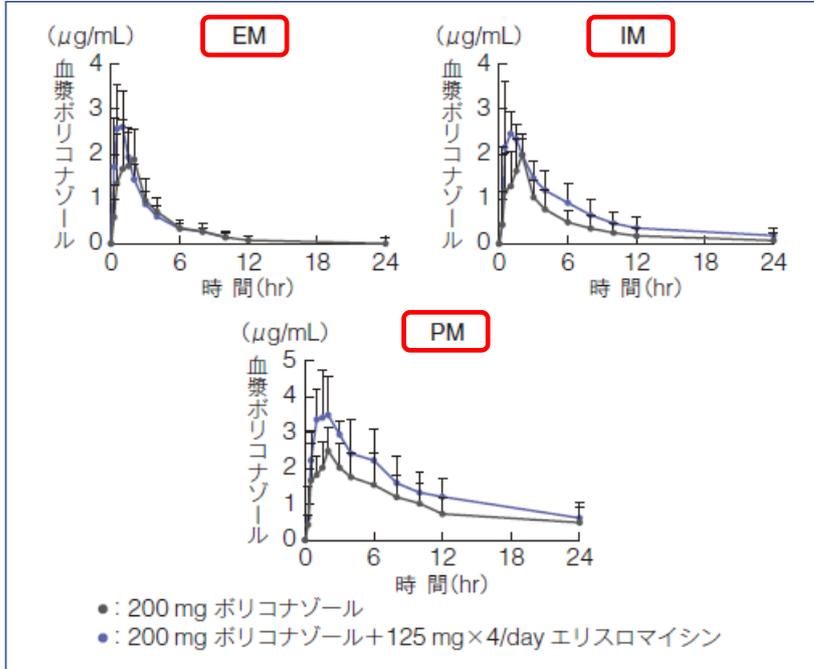


図 7-39 ポリコナゾールの血中濃度推移に及ぼすエリスロマイシンの影響

(Shi H Y, et al: Eur J Clin Pharmacol, 66: 1131-1136, 2010 より改変)

【正】

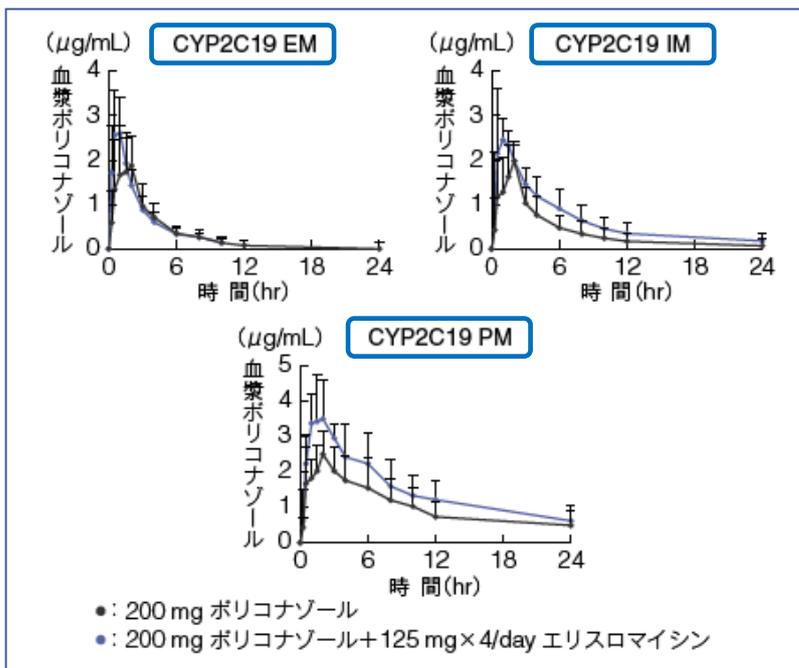


図 7-39 ポリコナゾールの血中濃度推移に及ぼすエリスロマイシンの影響

(Shi H Y, et al: Eur J Clin Pharmacol, 66: 1131-1136, 2010 より改変)

【誤】

表 7-17 肝疾患における薬物代謝酵素の変動

シトクロム 450 (CYP) 活性	代謝活性の変動
CYP1A2	大きく低下
CYP2A6	低下
CYP2C9	わずかに低下
CYP2C19	大きく低下
CYP2D6	わずかに低下
CYP2E1	低下
CYP3A4	低下
CYP 以外の代謝活性	代謝活性の変動
グルクロン酸抱合	不変 (わずかな低下)
硫酸抱合	不変
アセチル抱合	不変 (わずかな低下)
グルタチオン抱合	不変
アルコール酸化	不変

(加藤隆一：薬物代謝学 医療薬学・医薬品開発の基礎として 第3版, 加藤隆一, 他編, p.151, 東京化学同人, 2010より改変)

【正】

表 7-17 肝疾患における薬物代謝酵素の変動

シトクロム 450 (CYP) 活性	代謝活性の変動
CYP1A2	大きく低下
CYP2A6	低下
CYP2C9	わずかに低下
CYP2C19	大きく低下
CYP2D6	わずかに低下
CYP2E1	低下
CYP3A4	低下
CYP 以外の代謝活性	代謝活性の変動
グルクロン酸抱合	不変 (わずかな低下)
硫酸抱合	不変
アセチル抱合	不変 (わずかな低下)
グルタチオン抱合	不変
アルコール酸化	不変

(加藤隆一：薬物代謝学 医療薬学・医薬品開発の基礎として 第3版, 加藤隆一, 他編, p.151, 東京化学同人, 2010より改変)

『みてわかる薬学 図解 薬剤学 改訂6版2刷』訂正表

いつも小社出版物をご利用いただき誠にありがとうございます。

当該書籍に以下の誤りがございました。深くお詫びするとともに、ここに訂正いたします。

■ p.102 上から18行目

【誤】 ～，粒子径の2乗に**反比例**するので，

【正】 ～，粒子径の2乗に**比例**するので，

2021年2月15日 現在